

第1章 調査の概要

1. 1 地震被害想定調査の基本的な考え方

神奈川県では、これまで昭和 57～60 年度、平成 3～4 年度、阪神・淡路大震災後の平成 9～10 年度、平成 19～20 年度及び東日本大震災後の平成 25～26 年度に地震被害想定調査を実施している。その後も平成 28 年の熊本地震、平成 30 年の北海道胆振東部地震、令和 6 年の能登半島地震などの大規模地震が発生し、これらの災害調査の結果から多くの教訓や課題が明らかにされている。

本被害想定調査は、地震学、地震工学、災害社会学等の地震被害や災害を対象とする科学技術の最新の知見や近年の大規模震災の事例を参考に用い、本県の自然条件や都市環境等の社会条件及び産業構造等の特性も加味して、本県に影響を及ぼす地震による地震動や津波、土砂災害、火災の発生等による人的・物的・経済的被害等を定量的に想定したものである。

また、定量的に想定する被害及び定量的に把握できない定性的な被害について、時間の経過とともに変化する被害の様相、行政等の応急活動及び県民の避難行動や防災・減災活動に資するシナリオを作成することで、地震による被害や対応の全体像を把握するとともに、神奈川県地震に対する脆弱性や課題を明らかにした。作成したシナリオやシナリオ検討の過程で明らかになった課題は、今後地域防災計画の修正、地震防災戦略の見直し等を行う際の基礎資料となるものである。

1. 2 目的

今回の調査の目的は、次のとおりである。

- ① 地震学、地震工学、災害社会学等の地震被害や災害を対象とする科学技術の最新の知見や、令和 6 年能登半島地震、北海道胆振東部地震、熊本地震、東日本大震災、阪神・淡路大震災等の近年の大規模震災の事例を参考に用い、本県の自然条件や都市環境等の社会条件及び産業構造等の特性も加味して、本県に影響を及ぼす地震による人的・物的・経済的被害を定量的に想定する。
- ② 定量的に想定する被害及び定量的に把握できない定性的な被害について、時間の経過とともに変化する様相、行政等の応急活動及び県民の避難行動や防災・減災活動に資するシナリオを作成することで、地震による被害の全体像を把握するとともに、地震災害対策の基礎資料とする。また、県民アンケート等から検討した、地震発生時に県民が直面する場面と取るべき行動について、新たに県民シナリオを作成するとともに、今後の防災・減災等の普及啓発に活用するための資料とする。
- ③ 本県の地震に対する脆弱性や課題を明らかにすることにより、地域防災計画、地震防災戦略、県民向け啓発資料等の地震防災諸施策の基礎資料とする。

1. 3 調査対象・範囲

神奈川県全域を対象とした（図 1.1）。神奈川県は面積は 2,416.32 km²、市町村数は、33 市町村（このほか横浜市、川崎市、相模原市に合計 28 行政区）である。

なお、県内全域を 250m 四方のメッシュに区分して、それぞれのメッシュを単位として被害を想定し、原則として市区町村単位で結果をとりまとめている。



図 1.1 調査対象とする範囲（神奈川県全域）

1. 4 前提条件

(1) 想定地震

ア 神奈川県の地震活動

神奈川県に被害を及ぼす地震は、主に以下のタイプの地震である。

- ・相模湾から房総半島南東沖にかけてのプレート境界付近で発生する地震
- ・陸域の様々な深さの場所で発生する地震

相模湾から房総半島南東沖にかけてのプレート境界付近で発生する地震としては、1923 年の関東地震（Mw8.2）が知られており、県内全域で震度 6 弱以上の揺れとなり、一部では震度 7 の揺れが生じたと推定されている。さらに、1703 年の元禄地震でも、各地で死者が発生するなど大きな被害を生じている。

一方、陸域の様々な深さの場所で発生する地震としては、県西部地域で 1633 年、1782 年、1853 年にマグニチュード 7 クラスの被害を生じる地震が繰り返し発生している。このほか、県北西部の丹沢山地付近の地震や、陸域の深い場所で発生する地震（1992 年の東京湾南部の地震）により若干の被害が生じている。

さらに、神奈川県内には活断層が存在する。主な活断層としては、三浦半島中南部とその周辺海域に分布する三浦半島断層群、県中部の伊勢原断層、静岡県境の丹沢山地南縁から相模湾に延びる神縄・国府津－松田断層帯、県西部から伊豆半島に延びる北伊豆断層帯がある。

イ 想定地震の選定

今回の調査における想定地震については、神奈川県に及ぼす被害の量的・地域的な状況や、発生の切迫性などを考慮し、選定した。想定地震とその選定理由は次のとおり。

なお、発生確率が極めて低く、神奈川県防災行政やまちづくり行政などにおいて超長期的な対応となる地震や、国の被害想定において最新の知見による震源モデルが示されたものの被害量は想定されていない地震については、参考地震として被害等の想定を行った。

表 1.1 想定地震

想定地震名	Mw	県内で想定される主要震度	発生確率※	
都心南部直下地震	7.3	横浜市・川崎市を中心に震度6強	南関東地域のM7クラスの地震が30年間で70%	
三浦半島断層群の地震	7.0	横須賀三浦地域で震度6強	30年以内 6～11%	
神奈川県西部地震	6.7	県西地域で震度6強	過去400年の間に同クラスの地震が5回発生	
東海地震	8.0	県西地域で震度6弱	南海トラフの地震は30年以内80%程度	
南海トラフ巨大地震	9.0	県西地域で震度6弱	南海トラフの地震は30年以内80%程度	
大正型関東地震	8.2	湘南地域・県西地域を中心に震度7	30年以内 ほぼ0%～6% (2百年から4百年の発生間隔)	
(参考地震)	元禄型関東地震	8.5	湘南地域・県西地域を中心に震度7	30年以内 ほぼ0% (2千年から3千年の発生間隔)
	相模トラフ沿いの最大クラスの地震	8.7	全県で震度7(津波による被害は「西側モデル」と「中央モデル」で想定)	30年以内 ほぼ0%～6% (2千年から3千年あるいはそれ以上の発生間隔)
	慶長型地震	8.5	想定していない (津波による被害のみ想定)	評価していない
	明応型地震	8.4	想定していない (津波による被害のみ想定)	評価していない
	元禄型関東地震と国府津－松田断層帯の連動地震	8.3	想定していない (津波による被害のみ想定)	評価していない

※地震調査研究推進本部(文部科学省:令和7年1月15日現在)、中央防災会議首都直下地震モデル検討会報告書(内閣府:平成25年12月)などによる評価。

表 1.2 想定地震の選定理由

想定地震名		理由
都心南部直下地震		地震発生の可能性が高いグループの地震に属しており、横浜市・川崎市などの県東部の都市部が被災した場合に必要な応急対策、復旧・復興対策及び県域を超えた広域応援・帰宅困難者対策等を検討するため。
三浦半島断層群の地震		地震発生の可能性が高いグループの地震に属しており、県東部に大きな被害及び三浦半島地域の孤立が懸念される地震であり、孤立化対策等を検討するため。
神奈川県西部地震		県西部に大きな被害が発生した場合の県内の応援体制、その他局地的な被害に対する応急対策を検討するため。 ※いくつかの異論も唱えられているものの、約 70 年間隔でほぼ定期的に繰り返し発生し、現在は次の発生時期にあたっているという説が出ている地震
東海地震		「大規模地震対策特別措置法」の対象となる地震のため。
南海トラフ巨大地震		あらゆる可能性を考慮した南海トラフの最大クラスの地震で、「南海トラフ巨大地震対策特別措置法」の対象となる地震のため。
大正型関東地震		1923 年の大正関東地震を再現した地震で、県の防災上の重要建築物の耐震診断基準として活用され、地震防災戦略や地域防災計画等において対策の対象としており、県内全域に大きな被害が発生し、復旧や復興が長期化した場合の対策を検討するため。
（参考地震）	元禄型関東地震	発生確率は極めて低いですが、発生すれば甚大な被害が県全域に及ぶ可能性があり、長期的な対応が必要となる地震のため。
	相模トラフ沿いの最大クラスの地震	
	慶長型地震	最大クラスの津波による被害を周知して津波避難の普及啓発を図るとともに、津波避難対策の効果測定を行うため。
	明応型地震	
	元禄型関東地震と国府津－松田断層帯の連動地震	

想定地震のうち、「都心南部直下地震」、「神奈川県西部地震」、「大正型関東地震」、「南海トラフ巨大地震」については、応急活動を中心としたシナリオの作成対象とした。

(2) 被害の想定条件

季節については、火災被害が最大となる冬と、海水浴客の津波被害が発生する夏を対象とした。

また、時刻については、多くの人が帰宅している時間である、平日 18 時のほか、多くの人が自宅に在宅し、朝食の準備等で火を使い始める平日朝 5 時と、企業・学校等に多くの人が所在している平日昼 12 時についても想定した。

【被害想定条件】

- ① 季節： 夏、冬
- ② 発生時刻： 5 時、12 時、18 時
- ③ 日： 平日

※津波については、避難行動を取りにくい時間帯である深夜 0 時も算出している。

表 1.3 被害想定条件

項目	設定値	理由
季節	夏	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1923 年関東大震災時の季節 ・ 出火の発生が比較的少ない季節 ・ 観光客等(特に海)が多い季節
	冬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災時、東日本大震災時の季節 ・ 出火の発生が比較的多い季節
時刻	5 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災の発生時刻 ・ 多くの人が在宅している時刻 ・ 防災関係機関が初動体制をとりにくい時刻
	12 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1923 年関東大震災の発生時刻 ・ 多くの人が事業所・学校等に所在または外出している時刻 ・ 防災関係機関が初動体制を比較的取りやすい時刻
	18 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出火の発生が比較的多い時刻 ・ 多くの人が帰宅途中の時刻
	0 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波による人的被害を算定する場合の条件 ・ 津波から避難することが厳しい時刻
風向	—	・ 各地域における夏・冬の平均風向
風速	—	・ 各地域における夏・冬の平均風速

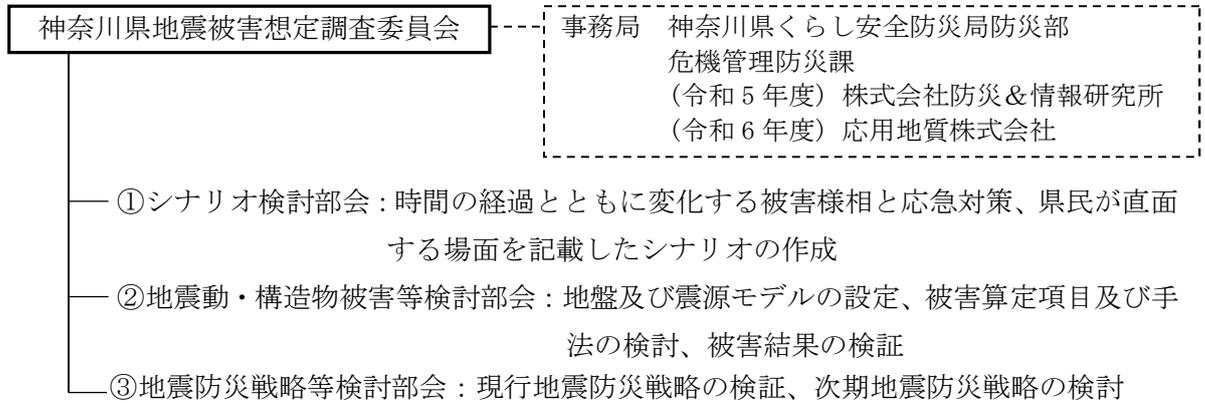
表 1.4 10 年間（2014～2023 年）の最多風向・平均風速（県内の气象台・アメダス）

	横浜		三浦		辻堂		小田原	
	風向	風速	風向	風速	風向	風速	風向	風速
1 月	北	3.6m/s	北北東	2.9 m/s	北北東	3.0 m/s	北	1.9 m/s
8 月	南南西	3.4 m/s	南南西	3.0 m/s	南南西 or 南	3.4 m/s	南	2.7 m/s

※「風向」は、月内の最多回数の風向

1. 5 調査体制

県及び市町村等の行政機関、学識経験者による「神奈川県地震被害想定調査委員会」を設置するとともに、個別事項を検討するため、委員会の下に3つの部会を設置した。



○ 神奈川県地震被害想定調査委員会委員

(学識経験者)

- | | |
|-------|--|
| 阿南 英明 | (地独)神奈川県立病院機構理事長 (令和6年4月1日以降)
神奈川県健康医療局非常勤顧問 (令和6年4月1日以降)
神奈川県理事(医療危機対策担当) (令和6年3月31日まで)
医療危機対策統括官 (令和6年3月31日まで)
藤沢市民病院副院長 (令和6年3月31日まで) |
| 石川 永子 | 横浜市立大学国際教養学部准教授 (令和6年4月1日以降)
横浜市立大学都市社会文化研究科准教授 (令和6年3月31日まで) |
| 稲垣 景子 | 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授 |
| 荏本 孝久 | 神奈川大学名誉教授 |
| 秦 康範 | 日本大学危機管理学部教授 (令和6年4月1日以降)
山梨大学大学院医学工学総合研究部社会システム工学系准教授
(令和6年3月31日まで) |
| 吉井 博明 | 東京経済大学名誉教授 |

(行政機関)

- 横浜市総務局危機管理室防災企画課長
- 川崎市危機管理本部危機管理部計画担当課長
- 相模原市危機管理局参事兼危機管理課長
- 横須賀市市長室危機管理課危機管理監
- 鎌倉市市民防災部次長兼総合防災課担当課長
- 藤沢市防災安全部参事兼防災政策課長
- 小田原市防災部防災対策課長
- 厚木市企画部危機管理課長 (令和6年4月1日以降)
- 厚木市市長室危機管理課長 (令和6年3月31日まで)
- くらし安全防災局防災部危機管理防災課長
- くらし安全防災局防災部消防保安担当部長 (令和6年4月1日以降)
- くらし安全防災局防災部消防保安課長 (令和6年3月31日まで)
- くらし安全防災局防災部工業保安担当課長 (令和6年3月31日まで)
- くらし安全防災局温泉地学研究所長
- 環境農政局環境部資源循環推進課長

福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課長
 福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課長
 福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課長
 健康医療局保健医療部健康危機・感染症対策課長（令和6年4月1日以降）
 医療危機対策本部室災害医療担当課長（令和6年3月31日まで）
 県土整備局都市部都市整備課長
 県土整備局道路部道路管理課長
 県土整備局河川下水道部防災なぎさ担当課長
 県土整備局河川下水道部砂防課長
 県土整備局河川下水道部下水道課長
 県土整備局建築住宅部建築安全課長
 企業庁企業局水道部計画課長
 警察本部警備部危機管理対策課長

○ シナリオ検討部会委員

(学識経験者)

阿南 英明 (地独)神奈川県立病院機構理事長（令和6年4月1日以降）
 神奈川県健康医療局非常勤顧問（令和6年4月1日以降）
 神奈川県理事(医療危機対策担当)（令和6年3月31日まで）
 医療危機対策統括官（令和6年3月31日まで）
 藤沢市民病院副院長
 石川 永子 横浜市立大学国際教養学部准教授（令和6年4月1日以降）
 横浜市立大学都市社会文化研究科准教授（令和6年3月31日まで）
 秦 康範 日本大学危機管理学部教授（令和6年4月1日以降）
 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会システム工学系准教授
 （令和6年3月31日まで）

吉井 博明
 (行政機関)

東京経済大名誉教授
 横浜市総務局危機管理室防災企画課長
 川崎市危機管理本部危機管理部計画担当課長
 相模原市危機管理局参事兼危機管理課長
 横須賀市市長室危機管理課危機管理監
 鎌倉市市民防災部次長兼総合防災課担当課長
 藤沢市防災安全部参事兼防災政策課長
 小田原市防災部防災対策課長
 厚木市企画部危機管理課長（令和6年4月1日以降）
 厚木市市長室危機管理課長（令和6年3月31日まで）
 くらし安全防災局防災部危機管理防災課長
 くらし安全防災局防災部消防保安担当部長（令和6年4月1日以降）
 くらし安全防災局防災部消防保安課長
 くらし安全防災局防災部工業保安担当課長（令和6年3月31日まで）
 くらし安全防災局温泉地学研究所長
 文化スポーツ観光局観光課長（令和6年4月1日以降）
 国際文化観光局観光課長（令和6年3月31日まで）
 環境農政局環境部資源循環推進課長
 福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課長
 福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課長

福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課長
健康医療局保健医療部健康危機・感染症対策課長（令和6年4月1日以降）
医療危機対策本部室災害医療担当課長（令和6年3月31日まで）
健康医療局保健医療部医療課長
産業労働局中小企業部商業流通課長
県土整備局都市部都市整備課長
県土整備局道路部道路管理課長
県土整備局河川下水道部防災なぎさ担当課長
県土整備局河川下水道部砂防課長
県土整備局河川下水道部下水道課長
県土整備局建築住宅部住宅計画課長
県土整備局建築住宅部建築安全課長
教育局総務室企画調整担当課長
企業庁企業局水道部計画課長
警察本部警備部危機管理対策課長
陸上自衛隊東部方面混成団第3科長
日本赤十字社神奈川県支部事業部救護課長

（自主防災組織・NPO）

金子 寿 Friendly Life Community会長
菅野 由美子 女性防災クラブ 平塚パワーズ会長
植山 利昭 神奈川災害ボランティアネットワーク副理事長
濱田 政宏 SL災害救援ボランティアネットワーク・かながわ顧問

○ 地震動・構造物被害検討部会委員

（学識経験者）

稲垣 景子 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 准教授
荻本 孝久 神奈川大学名誉教授

（行政機関）

横浜市総務局危機管理室防災企画課長
川崎市危機管理本部危機管理部計画担当課長
相模原市危機管理局参事兼危機管理課長
横須賀市市長室危機管理課危機管理監
鎌倉市市民防災部次長兼総合防災課担当課長
藤沢市防災安全部参事兼防災政策課長
小田原市防災部防災対策課長
厚木市企画部危機管理課長（令和6年4月1日以降）
厚木市市長室危機管理課長（令和6年3月31日まで）
くらし安全防災局防災部危機管理防災課長
くらし安全防災局防災部消防保安担当部長（令和6年4月1日以降）
くらし安全防災局防災部消防保安課長（令和6年4月1日以降）
くらし安全防災局防災部工業保安担当課長（令和6年3月31日まで）
くらし安全防災局温泉地学研究所長
県土整備局都市部都市整備課長
県土整備局道路部道路管理課長
県土整備局河川下水道部防災なぎさ担当課長
県土整備局河川下水道部砂防課長
県土整備局河川下水道部下水道課長
県土整備局建築住宅部建築安全課長

企業庁企業局水道部計画課長

○ 地震防災戦略等検討部会委員

(学識経験者)

稲垣 景子 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 准教授
秦 康範 日本大学危機管理学部教授 (令和6年4月1日以降)
山梨大学大学院医学工学総合研究部社会システム工学系准教授
(令和6年3月31日まで)

吉井 博明 東京経済大名誉教授
(行政機関)

横浜市総務局危機管理室防災企画課長
川崎市危機管理本部危機管理部計画担当課長
相模原市危機管理局参事兼危機管理課長
横須賀市市長室危機管理課危機管理監
鎌倉市市民防災部次長兼総合防災課担当課長
藤沢市防災安全部参事兼防災政策課長
小田原市防災部防災対策課長
厚木市企画部危機管理課長 (令和6年4月1日以降)
厚木市市長室危機管理課長 (令和6年3月31日まで)
政策局総務室企画調整担当課長
総務局総務室企画調整担当課長
くらし安全防災局総務室管理担当課長 (令和6年4月1日以降)
くらし安全防災局総務室企画調整担当課長 (令和6年3月31日まで)
くらし安全防災局防災部危機管理防災課長
くらし安全防災局防災部消防保安担当部長 (令和6年4月1日以降)
くらし安全防災局防災部消防保安課長 (令和6年4月1日以降)
くらし安全防災局温泉地学研究所長 (令和6年4月1日以降)
文化スポーツ観光局総務室企画調整課長 (令和6年4月1日以降)
環境農政局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
福祉子どもみらい局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
健康医療局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
産業労働局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
県土整備局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
企業局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
教育局総務室企画調整担当課長 (令和6年4月1日以降)
警察本部警備部危機管理対策課長 (令和6年4月1日以降)

1. 6 調査内容

主な調査項目と調査の流れを図 1.2 に示す。また、主な想定内容を表 1.5 にまとめた。手法を変更した項目や新たに追加した項目については、表 1.6 にて概要を説明している。

調査の内容は、自然災害調査（地震動、液状化、急傾斜地崩壊、津波の予測等）、社会的災害調査（人的被害、物的被害、経済被害の想定等）及びシナリオの検討からなる。なお、データの収集・整理にあたっては、可能な限りデジタル化して保存し、次回以降の地震被害想定調査にも資するようにした。主な調査結果は表 1.7 に取りまとめた。

また、被害想定の結果を、神奈川県地震防災対策に活用できるものとするために、防災対策関連資料を収集・整理するとともに、津波避難と防災対策に関する県民アンケート調査を実施した。

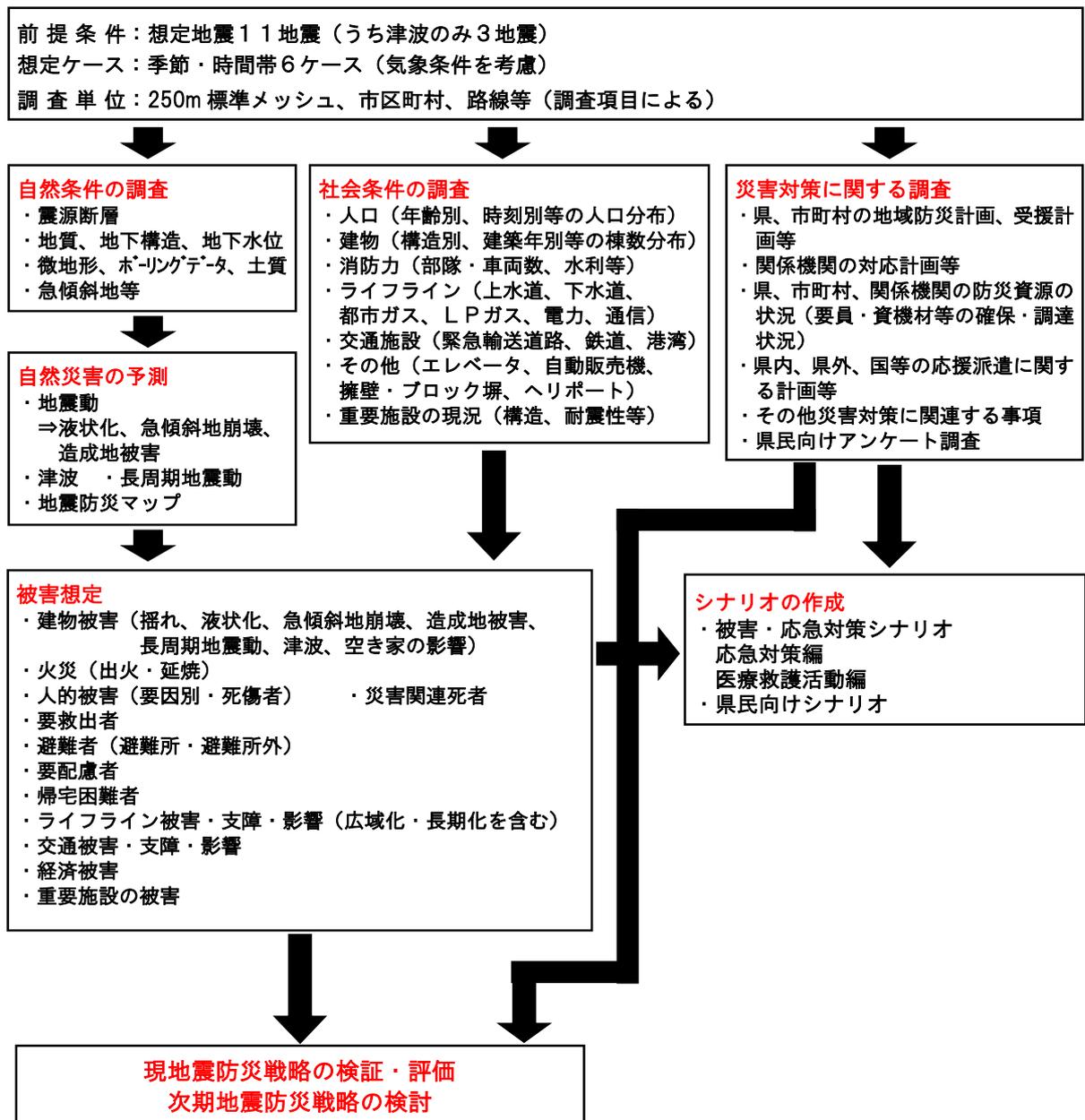


図 1.2 地震被害想定調査のフロー

表 1.5 想定地震と被害想定項目 (1/2)

想定地震		被害を算定する地震		津波による被害のみを想定する地震
		都心南部直下地震 神奈川県西部地震 南海トラフ巨大地震 大正型関東地震	三浦半島断層群の地震 東海地震 元禄型関東地震 (参考) 相模トラフ沿いの最大クラスの地震 (参考)	慶長型地震 (参考) 明応型地震 (参考) 元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震 (参考)
自然災害	計測震度	○	○	-
	最大加速度	○	○	-
	最大速度	○	○	-
	SI 値	○	○	-
	液化化危険度	○	○	-
	急傾斜地崩壊	△	△	-
	津波	◇	◇	◇
	長周期地震動	※1	※1	-
建物被害	揺れによる建物被害	○/□/■	○/□/■	-
	液化化による建物被害	○/□/■	○/□/■	-
	急傾斜崩壊による建物被害 (宅地造成地を含む)	△/□/■	△/□/■	-
	津波による建物被害	◇/□/■	◇/□/■	◇/□
火災被害	火災による建物被害	○/□/■	○/□/■	-
	津波出火件数	○/□/■	○/□/■	-
死傷者数	建物被害による死傷者	○/□/■	○/□/■	-
	火災による死傷者	○/□/■	○/□/■	-
	屋外落下物による死傷者	○/□/■	○/□/■	-
	ブロック塀等の倒壊による死傷者	○/□/■	○/□/■	-
	屋内収容物の転倒による死傷者	○/□/■	○/□/■	-
	自動販売機の転倒による死傷者	○/□/■	○/□/■	-
	津波による死傷者数 (海水浴客等を含む)	◇/□/■	◇/□/■	◇/□
	災害関連死者数	○/□/■	○/□/■	-
その他の被害	避難者数	○/□/■	○/□/■	-
	要配慮者数 (避難者、ライフライン支障者、 自宅被災)	○/□/■	○/□/■	-
	帰宅困難者 (観光客を含む)	○/□/■	○/□/■	-
	自力脱出困難者 (要救出者)	○/□/■	○/□/■	-

○：250m メッシュで算出 ◇：10m メッシュで算出 ●：路線・施設・対象地域別に算出
 △：対象となる 250m メッシュで算出 □：市区町村別に算出 -：算出しない ■：定性的に記載
 ※1：「南海トラフ巨大地震、大正型関東地震、元禄型関東地震、相模トラフ沿いの最大クラスの地震」について波形を算出。

表 1.5 想定地震と被害想定項目 (2/2)

被害想定項目		被害を算定する地震		津波による被害のみを想定する地震
		都心南部直下地震 神奈川県西部地震 南海トラフ巨大地震 大正型関東地震	三浦半島断層群の地震 東海地震 元禄型関東地震 (参考) 相模トラフ沿いの最大クラスの地震 (参考)	慶長型地震 (参考) 明応型地震 (参考) 元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震 (参考)
ライフライン被害	上水道被害	○/□/■	○/□/■	-
	下水道被害	○/□/■	○/□/■	-
	都市ガス被害	○/□/■	○/□/■	-
	LP ガス被害	□/■	□/■	-
	電力被害	○/□/■	○/□/■	-
	通信被害	○/□/■	○/□/■	-
交通被害	道路被害	●/■	●/■	-
	鉄道被害	●/■	●/■	-
	港湾施設被害	●/■	●/■	-
その他	エレベーター停止	○/□/■	○/□/■	-
	災害廃棄物	○/□/■	○/□/■	-
	ヘリポート機能支障	●/■	●/■	-
	河川堤防被害	■	■	-
	集落の被災	●/■	●/■	-
	文化財被害	●/■	●/■	-
経済被害	直接被害 (資産等の被害)	■	■	-
	生産・サービス低下による影響	■	■	-
	交通寸断による影響	■	■	-
重要施設の被害	災害対策本部施設等の機能支障	●	-	-
	避難所の機能支障	●	-	-
	超高層建物の被害	■	-	-
	大規模集客施設の被害	■	-	-
	危険物施設の被害	■	-	-
	介護保険施設の被害	■	-	-
激甚 (最悪) ケース	新幹線脱線・転覆	■	-	-
	高速道路崩壊	■	-	-
	コンビナート火災	■	-	-
	火山灰・溶岩流の影響	■	-	-
	原子力施設の被害	■	-	-
	停電の広域化・長期化による影響	■	-	-
	火災旋風発生による延焼の拡大と集中的死傷者の発生	■	-	-

○ : 250m メッシュで算出 ◇ : 10m メッシュで算出 ● : 路線・施設・対象地域別に算出
 △ : 対象となる 250m メッシュで算出 □ : 市区町村別に算出 - : 算出しない ■ : 定性的に記載

表 1.6 変更・追加した想定項目とその概要

被害想定項目		前回調査手法	今回調査手法										
建物被害	揺れ	非木造の被害率曲線は、愛知県（2003）を使用	非木造の被害率曲線は、内閣府（2025）を使用										
	液状化	PL 値を用いた液状化面積率で算定 →建物棟数×PL 値に対応した液状化面積率×全壊率 <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr> <th>PL 値の範囲</th> <th>液状化面積率</th> </tr> <tr> <td>PL=0</td> <td>0 %</td> </tr> <tr> <td>0 < PL ≤ 5</td> <td>7 %</td> </tr> <tr> <td>5 < PL ≤ 15</td> <td>18 %</td> </tr> <tr> <td>15 < PL</td> <td>65 %</td> </tr> </table>	PL 値の範囲	液状化面積率	PL=0	0 %	0 < PL ≤ 5	7 %	5 < PL ≤ 15	18 %	15 < PL	65 %	構造別に沈下量に応じた被害率曲線で算定 →建物棟数×沈下量に対応した全壊率
	PL 値の範囲	液状化面積率											
PL=0	0 %												
0 < PL ≤ 5	7 %												
5 < PL ≤ 15	18 %												
15 < PL	65 %												
急傾斜地崩壊	急傾斜地崩壊危険箇所を対象に、個々の台帳から箇所別の危険度を評価し、震度を加味して、全壊・半壊率を設定	土砂災害警戒区域を対象に、国土地理院の手法を参考に、震度、地形の傾斜、地形の曲率、地質情報から斜面災害危険度を算出し、危険度ごとの全壊・半壊率を設定											
火災被害	建物火災	不燃領域率は以下の通り算定 不燃領域率 $= 1 - \frac{\text{建物棟数} \times 1 \text{棟あたりの敷地面積}}{\text{メッシュの面積}}$	不燃領域率は以下の通り算定 不燃領域率 = 空地率 + (1 - 空地率) × 不燃化率 空地率 = $\frac{\text{水面・道路など一定以上の大きさの空地面積}}{\text{市街地面積}}$ 不燃化率 = $\frac{\text{耐火造建築面積} + \text{準耐火造建築面積} \times 0.8}{\text{全建物建築面積}}$										
		メッシュ単位で延焼シミュレーションを実施	建物 1 棟単位で延焼シミュレーションを実施										
	【新規】津波火災	—	東日本大震災で発生した津波火災の実績に基づき津波による車両火災、その他の火災件数を推計										
人的被害	揺れ・屋内収容物・火災	空き家の考慮なし	参考数値として、空き家率を考慮した被害を算定 死者数、重症者数、中等症者数、軽症者数 →前回手法による死者数、重症者数、中等症者数、軽症者数 × (1 - 空き家率)										
	津波	津波避難ビル・タワーの考慮なし	津波避難ビル・タワーを考慮 →A と B のうち、人数が少ない方を収容可能人数とし、津波避難ビル考慮前の津波による人的被害数に対して、津波避難ビルへの収容可能人数分だけ人的被害が軽減されるものとする。 A：津波避難ビル・タワーにおける収容可能人数 B：収容可能人数 = { $\pi \times (\text{避難距離 m})^2$ } × 0.5 × 周辺人口密度 (人/m ²)										
		海水浴客等の評価なし	海水浴客等を含んだ被害を算出										
	【新規】自動販売機の転倒	—	推計した自動販売機台数と震度、屋外人口から自動販売機の転倒による人的被害を算出										
	【新規】災害関連死	—	東日本大震災における災害関連死者数と最大避難者数の関係に基づき、避難者数の結果から災害関連死者数を推計										
	帰宅困難	国勢調査をもとに通勤・通学者が距離に応じて徒歩帰宅が困難になる割合を考慮して、帰宅困難者を推計	国勢調査に基づく通勤・通学者に加え、入込観光客調査報告書に基づく観光客が帰宅困難になる可能性も考慮して、帰宅困難者を推計										
交通被害	道路被害	施工年と地震動の大きさ（SI 値）から橋梁の被害を推計 道路幅員と建物被害率から閉塞確率を推計し、細街路の閉塞を想定	橋梁被害と細街路の閉塞の想定に加え、渋滞の発生、沿道建物被害・山・がけ崩れ等による道路被害について定性的に評価										

被害想定項目		前回調査手法	今回調査手法
その他	【新規】 河川堤防被害	—	河川堤防について、位置と震度から、被害可能性について定性的に整理
	【新規】 集落の被災	—	農業集落・漁業集落について位置と震度から、定性的に整理
	【新規】 文化財被害	—	揺れや火災などの被害状況と文化財の立地から、地震時の被害可能性について定性的に整理
経済被害	直接被害（資産等の被害）	建物被害、ライフライン被害、交通施設被害による被害額について、被害量と各項目の単価から推計	建物被害、ライフライン被害、交通施設被害に加え、災害廃棄物処理費用についても廃棄物量と処理単価・収集運搬単価から推計
	重要施設被害	災害対策本部施設等の機能支障、避難所の機能支障について、揺れによる建物被害、揺れ以外の外的要因（津波）、ライフライン支障、交通支障の4点から各施設及び施設の使用環境への影響を評価	災害対策本部施設等の機能支障、避難所の機能支障の評価に加え、超高層建物・大規模集客施設・危険物施設・介護保険施設について、被災可能性を定性的に整理
	激甚（最悪）ケース	新幹線脱線、転覆や高速道路崩壊、火災旋風発生による延焼の拡大と集中的死傷者の発生により想定される被害を定性的に整理	新幹線脱線・転覆、高速道路崩壊、火災旋風発生による延焼の拡大と集中的死傷者の発生に加え、コンビナート火災、火山灰・溶岩流の影響、原子力施設の被害、停電の広域化・長期化による影響も定性的に整理

表 1.7 主な想定結果 (1/5)

地震	季節 時間帯	建物棟数	全壊棟数 (単位:棟)				半壊棟数 (単位:棟)				火災	
			合計	揺れ 液状化	急傾斜地 崩壊	津波	合計	揺れ 液状化	急傾斜地 崩壊	津波	出火件数 (炎上出火) (単位:件)	焼失棟数 (棟)
都心南部 直下地震	夏5時	2,413,659 【木造建物】 旧耐震 548,731棟 新耐震 1,271,649棟	43,060	42,760	280	20	170,120	169,320	640	160	70	1,560
	夏12時		43,050	42,750	280	20	170,080	169,280	640	160	90	2,060
	夏18時		42,980	42,680	280	20	169,850	169,050	640	160	220	4,620
	冬5時		43,070	42,770	280	20	170,130	169,330	640	160	70	1,520
	冬12時		43,050	42,750	280	20	170,050	169,250	640	160	100	2,350
	冬18時		42,920	42,630	270	20	169,670	168,870	640	160	320	6,450
三浦半島 断層群の 地震	夏5時		15,860	15,630	210	20	73,760	72,940	480	340	20	460
	夏12時		15,850	15,620	210	20	73,750	72,930	480	340	30	620
	夏18時		15,840	15,610	210	20	73,720	72,900	480	340	60	1,080
	冬5時		15,860	15,630	210	20	73,760	72,940	480	340	20	460
	冬12時		15,850	15,620	210	20	73,740	72,920	480	340	30	710
	冬18時		15,830	15,600	210	20	73,670	72,850	480	340	100	1,760
神奈川県 西部地震	夏5時		3,440	3,220	*	220	15,750	14,350	10	1,390	*	30
	夏12時		3,440	3,220	*	220	15,750	14,350	10	1,390	*	30
	夏18時		3,430	3,210	*	220	15,750	14,350	10	1,390	*	170
	冬5時		3,440	3,220	*	220	15,750	14,350	10	1,390	*	30
	冬12時		3,430	3,210	*	220	15,750	14,350	10	1,390	*	140
	冬18時		3,430	3,210	*	220	15,750	14,350	10	1,390	10	190
東海地震	夏5時	2,970	210	0	2,760	13,230	4,950	0	8,280	0	0	
	夏12時	2,970	210	0	2,760	13,230	4,950	0	8,280	*	80	
	夏18時	2,970	210	0	2,760	13,230	4,950	0	8,280	*	80	
	冬5時	2,970	210	0	2,760	13,230	4,950	0	8,280	0	0	
	冬12時	2,970	210	0	2,760	13,230	4,950	0	8,280	*	80	
	冬18時	2,970	210	0	2,760	13,230	4,950	0	8,280	*	190	
南海 トラフ 巨大地震	夏5時	5,770	300	0	5,470	19,280	7,780	0	11,500	0	0	
	夏12時	5,770	300	0	5,470	19,280	7,780	0	11,500	*	80	
	夏18時	5,770	300	0	5,470	19,280	7,780	0	11,500	*	120	
	冬5時	5,770	300	0	5,470	19,280	7,780	0	11,500	0	0	
	冬12時	5,770	300	0	5,470	19,280	7,780	0	11,500	*	80	
	冬18時	5,770	300	0	5,470	19,280	7,780	0	11,500	*	210	
大正型 関東地震	夏5時	310,500	306,260	850	3,390	392,760	379,670	1,980	11,110	480	10,510	
	夏12時	310,320	306,080	850	3,390	392,560	379,470	1,980	11,110	530	11,570	
	夏18時	307,520	303,320	840	3,360	389,320	376,350	1,970	11,000	1,090	28,930	
	冬5時	310,460	306,220	850	3,390	392,710	379,620	1,980	11,110	500	10,750	
	冬12時	310,120	305,880	850	3,390	392,320	379,240	1,980	11,100	590	12,840	
	冬18時	303,300	299,140	830	3,330	384,410	371,600	1,950	10,860	1,590	55,270	
(参考)	関東地震 元禄型	夏5時	327,200	303,310	810	23,080	433,040	369,290	1,900	61,850	480	10,510
		夏12時	327,030	303,140	810	23,080	432,830	369,100	1,900	61,830	530	11,540
		夏18時	324,060	300,400	800	22,860	429,290	366,030	1,890	61,370	1,090	28,970
		冬5時	327,160	303,270	810	23,080	432,980	369,240	1,900	61,840	500	10,750
		冬12時	326,800	302,940	810	23,050	432,580	368,880	1,900	61,800	590	12,810
		冬18時	319,680	296,260	790	22,630	423,980	361,400	1,870	60,710	1,590	55,240
	クラ ス の 地 震 (西 側 モ デル)	夏5時	473,290	440,740	1,030	31,520	490,920	417,270	2,420	71,230	760	19,070
		夏12時	472,980	440,450	1,030	31,500	490,610	417,010	2,420	71,180	820	20,420
		夏18時	463,660	431,770	1,010	30,880	481,760	409,430	2,380	69,950	1,630	60,390
		冬5時	473,110	440,570	1,030	31,510	490,740	417,110	2,420	71,210	790	19,870
		冬12時	472,290	439,810	1,020	31,460	489,980	416,470	2,410	71,100	910	23,220
		冬18時	453,440	422,280	990	30,170	472,130	401,180	2,330	68,620	2,390	103,630

※ *は1以上10未満を示す。

※ 液状化については、沈下量を用いて被害数を算出。

表 1.7 主な想定結果 (2/5)

地震	季節 時間帯	夜間人口	昼間人口	人的被害（空き家なし）（単位:人）																
				死者								重症者								
				合計	建物被害	急傾斜地	屋外落下物	ブロック塀	屋内収容物	自動販売機	火災	津波	合計	建物被害	急傾斜地	屋外落下物	ブロック塀	屋内収容物	自動販売機	津波
都心南部 直下地震	夏5時	9,237,337	7,848,957	2,850	2,490	10	*	*	350	*	*	0	1,200	780	*	*	*	420	*	0
	夏12時			2,100	1,860	10	*	*	230	*	*	0	1,270	940	*	*	20	310	*	0
	夏18時			1,830	1,560	10	*	50	200	*	10	0	1,050	640	*	*	130	280	*	0
	冬5時			2,850	2,490	10	*	*	350	*	*	0	1,200	780	*	*	*	420	*	0
	冬12時			2,100	1,860	10	*	*	230	*	*	0	1,270	940	*	*	20	310	*	0
	冬18時			1,850	1,560	10	*	50	200	*	30	0	1,050	640	*	*	130	280	*	0
三浦半島 断層群の 地震	夏5時			1,030	900	10	*	*	120	*	*	0	460	300	*	*	*	160	*	0
	夏12時			810	720	10	*	*	80	*	*	0	490	370	*	*	*	120	*	0
	夏18時			700	610	*	*	20	70	*	*	0	420	250	*	*	60	110	*	0
	冬5時			1,030	900	10	*	*	120	*	*	0	460	300	*	*	*	160	*	0
	冬12時			810	720	10	*	*	80	*	*	0	490	370	*	*	*	120	*	0
	冬18時			700	610	*	*	20	70	*	*	0	420	250	*	*	60	110	*	0
神奈川県 西部地震	夏5時			340	200	*	*	*	20	*	*	120	80	60	*	*	*	20	*	*
	夏12時			1,360	180	*	*	*	10	*	*	1,170	150	40	*	*	*	20	*	90
	夏18時			260	130	*	*	*	10	*	*	120	70	50	*	*	*	20	*	*
	冬5時			340	200	*	*	*	20	*	*	120	80	60	*	*	*	20	*	*
	冬12時			310	180	*	*	*	10	*	*	120	60	40	*	*	*	20	*	*
	冬18時			260	130	*	*	*	10	*	*	120	70	50	*	*	*	20	*	*
東海地震	夏5時	350	*	*	*	*	20	*	*	330	30	*	*	*	*	30	*	*		
	夏12時	500	*	*	*	*	10	*	*	490	30	*	*	*	*	20	*	10		
	夏18時	330	*	*	*	*	*	*	*	330	20	*	*	*	*	20	*	*		
	冬5時	350	*	*	*	*	20	*	*	330	30	*	*	*	*	30	*	*		
	冬12時	340	*	*	*	*	10	*	*	330	20	*	*	*	*	20	*	*		
	冬18時	330	*	*	*	*	*	*	*	330	20	*	*	*	*	20	*	*		
南海 トラフ 巨大地震	夏5時	800	*	*	*	*	20	*	*	780	40	*	*	*	*	30	*	10		
	夏12時	1,240	*	*	*	*	10	*	*	1,230	40	*	*	*	*	20	*	20		
	夏18時	790	*	*	*	*	10	*	*	780	30	*	*	*	*	20	*	10		
	冬5時	800	*	*	*	*	20	*	*	780	40	*	*	*	*	30	*	10		
	冬12時	790	*	*	*	*	10	*	*	780	30	*	*	*	*	20	*	10		
	冬18時	790	*	*	*	*	10	*	*	780	30	*	*	*	*	20	*	10		
大正型 関東地震	夏5時	27,280	19,370	40	*	*	1,700	*	100	6,070	6,980	5,350	*	*	*	1,450	*	180		
	夏12時	28,770	15,240	40	*	10	1,180	*	110	12,190	6,070	4,610	*	*	30	1,070	*	360		
	夏18時	19,800	12,430	30	*	90	990	*	190	6,070	5,010	3,660	*	*	250	920	*	180		
	冬5時	27,290	19,360	40	*	*	1,700	*	120	6,070	6,980	5,350	*	*	*	1,450	*	180		
	冬12時	22,630	15,230	40	*	10	1,180	*	100	6,070	5,890	4,610	*	*	30	1,070	*	180		
	冬18時	19,780	12,260	30	*	90	980	*	350	6,070	4,960	3,610	*	*	250	920	*	180		
(参考) 関東地震 元禄型 相模トラフ沿いの最大 クラスの地震(西側モ デル)	夏5時	78,690	19,180	40	*	*	1,690	*	100	57,680	7,510	5,300	*	*	*	1,440	*	770		
	夏12時	102,590	15,080	40	*	10	1,170	*	110	86,180	6,830	4,570	*	*	30	1,060	*	1,170		
	夏18時	71,280	12,310	30	*	90	980	*	190	57,680	5,560	3,620	*	*	250	920	*	770		
	冬5時	78,710	19,180	40	*	*	1,690	*	120	57,680	7,510	5,300	*	*	*	1,440	*	770		
	冬12時	74,070	15,070	40	*	10	1,170	*	100	57,680	6,420	4,560	*	*	30	1,060	*	770		
	冬18時	71,250	12,140	30	*	90	970	*	340	57,680	5,510	3,580	*	*	250	910	*	770		
	夏5時	109,160	27,820	50	*	*	2,650	*	240	78,400	10,920	7,710	*	*	*	2,180	*	1,030		
	夏12時	133,200	21,790	50	*	10	1,850	*	250	109,250	9,840	6,810	*	*	40	1,620	*	1,370		
	夏18時	98,230	17,630	40	*	110	1,540	*	510	78,400	8,020	5,290	*	*	320	1,380	*	1,030		
	冬5時	109,190	27,810	50	*	*	2,650	*	280	78,400	10,920	7,710	*	*	*	2,180	*	1,030		
	冬12時	102,310	21,760	50	*	10	1,840	*	250	78,400	9,480	6,800	*	*	40	1,610	*	1,030		
	冬18時	98,150	17,250	40	*	110	1,510	*	840	78,400	7,890	5,180	*	*	320	1,360	*	1,030		

※ *は1以上10未満を示す。

※ 津波については、「夏12時」以外は、深夜0時で被害数を算出。

表 1.7 主な想定結果 (3/5)

地震	季節 時間帯	人的被害 (空き家なし) (単位:人)														火災の逃げ惑いによる 人的被害 (単位:人)					
		中等症者							軽症者							死者	重症者	中等症者	軽症者		
		合計	建物被害	急傾斜地	屋外落下物	ブロック塀	屋内収容物	自動販売機	津波	合計	建物被害	急傾斜地	屋外落下物	ブロック塀	屋内収容物					自動販売機	津波
都心南部 直下地震	夏5時	14,510	10,590	*	*	20	3,900	*	0	24,880	19,090	*	*	20	5,770	*	0	*~*	10	50	70
	夏12時	14,030	11,100	*	*	90	2,840	*	0	23,170	18,890	*	*	80	4,200	*	0	*~*	*	60	80
	夏18時	11,440	8,070	*	30	780	2,560	*	0	18,680	14,130	*	60	700	3,790	*	0	*~*	20	140	170
	冬5時	14,510	10,590	*	*	20	3,900	*	0	24,880	19,090	*	*	20	5,770	*	0	*~*	*	50	60
	冬12時	14,030	11,100	*	*	90	2,840	*	0	23,170	18,890	*	*	80	4,200	*	0	*~*	10	70	90
	冬18時	11,440	8,070	*	30	780	2,560	*	0	18,670	14,120	*	60	700	3,790	*	0	*~*	30	200	240
三浦半島 断層群の 地震	夏5時	6,130	4,620	*	*	*	1,510	*	0	11,010	8,710	*	*	*	2,300	*	0	*~*	*	10	20
	夏12時	6,280	5,060	*	*	40	1,180	*	0	11,040	9,200	*	*	40	1,800	*	0	*~*	*	20	20
	夏18時	5,040	3,680	*	*	330	1,030	*	0	8,740	6,860	*	10	300	1,570	*	0	*~*	*	30	30
	冬5時	6,130	4,620	*	*	*	1,510	*	0	11,010	8,710	*	*	*	2,300	*	0	*~*	*	10	20
	冬12時	6,280	5,060	*	*	40	1,180	*	0	11,040	9,200	*	*	40	1,800	*	0	*~*	*	20	20
	冬18時	5,040	3,680	*	*	330	1,030	*	0	8,730	6,850	*	10	300	1,570	*	0	*~*	*	50	60
神奈川県 西部地震	夏5時	1,290	1,000	*	*	*	230	*	60	2,310	1,890	*	*	*	370	*	50	*~*	*	*	*
	夏12時	1,410	660	*	*	*	180	*	570	2,070	1,250	*	*	*	280	*	540	*~*	*	*	*
	夏18時	1,050	820	*	*	10	160	*	60	1,880	1,560	*	*	10	260	*	50	*~*	*	*	*
	冬5時	1,290	1,000	*	*	*	230	*	60	2,310	1,890	*	*	*	370	*	50	*~*	*	*	*
	冬12時	900	660	*	*	*	180	*	60	1,580	1,250	*	*	*	280	*	50	*~*	*	*	*
	冬18時	1,050	820	*	*	10	160	*	60	1,880	1,560	*	*	10	260	*	50	*~*	*	*	*
東海地震	夏5時	620	250	*	*	*	310	*	60	1,210	610	*	*	*	530	*	70	0	0	0	0
	夏12時	600	280	*	*	*	230	*	90	1,200	700	*	*	*	400	*	100	*~*	*	*	*
	夏18時	650	360	*	*	20	210	*	60	1,340	890	0	*	20	360	*	70	*~*	*	*	*
	冬5時	620	250	*	*	*	310	*	60	1,210	610	*	*	*	530	*	70	0	0	0	0
	冬12時	570	280	*	*	*	230	*	60	1,170	700	*	*	*	400	*	70	*~*	*	*	*
	冬18時	650	360	*	*	20	210	*	60	1,340	890	0	*	20	360	*	70	*~*	*	*	*
南海 トラフ 巨大地震	夏5時	900	440	*	*	*	370	*	90	1,780	1,070	*	*	*	620	*	90	0	0	0	0
	夏12時	870	450	*	*	*	280	*	140	1,730	1,110	*	*	*	470	*	150	*~*	*	*	*
	夏18時	930	560	*	*	30	250	*	90	1,910	1,370	*	*	30	420	*	90	*~*	*~*	*~*	*~*
	冬5時	900	440	*	*	*	370	*	90	1,780	1,070	*	*	*	620	*	90	0	0	0	0
	冬12時	820	450	*	*	*	280	*	90	1,670	1,110	*	*	*	470	*	90	*~*	*~*	*~*	*~*
	冬18時	930	560	*	*	30	250	*	90	1,910	1,370	*	*	30	420	*	90	*~*	*	*	*
大正型 関東地震	夏5時	56,410	42,460	30	*	40	12,770	*	1,110	75,160	55,780	20	*	30	18,280	*	1,050	*~10	40	300	370
	夏12時	50,460	38,640	30	20	180	9,420	*	2,170	69,020	53,220	20	50	170	13,490	*	2,070	*~*	40	320	380
	夏18時	41,680	30,750	20	160	1,490	8,150	*	1,110	56,930	42,490	10	350	1,350	11,680	*	1,050	30~60	100	760	910
	冬5時	56,400	42,450	30	*	40	12,770	*	1,110	75,150	55,770	20	*	30	18,280	*	1,050	*~*	40	310	370
	冬12時	49,370	38,610	30	20	180	9,420	*	1,110	67,970	53,190	20	50	170	13,490	*	1,050	10~10	50	350	420
	冬18時	41,250	30,390	20	160	1,490	8,080	*	1,110	56,340	41,990	10	350	1,350	11,590	*	1,050	120~230	200	1,460	1,760
(参考) 関東地震 元禄型 相模トラフ沿いの最大 クラスの地震(西側モ)	夏5時	59,300	41,730	30	*	40	12,700	*	4,800	77,430	54,470	20	*	30	18,180	*	4,730	*~10	40	300	370
	夏12時	54,010	37,150	20	20	180	9,370	*	7,270	70,740	49,930	20	50	170	13,420	*	7,150	*~*	40	320	380
	夏18時	44,700	30,130	20	160	1,490	8,100	*	4,800	59,320	41,270	10	340	1,350	11,620	*	4,730	30~60	100	760	910
	冬5時	59,290	41,730	30	*	40	12,690	*	4,800	77,420	54,460	20	*	30	18,180	*	4,730	*~*	40	310	380
	冬12時	51,510	37,130	20	20	180	9,360	*	4,800	68,280	49,900	20	50	170	13,410	*	4,730	10~10	50	350	420
	冬18時	44,280	29,770	20	160	1,490	8,040	*	4,800	58,740	40,780	10	340	1,350	11,530	*	4,730	120~230	200	1,460	1,760
	夏5時	82,000	56,420	30	*	50	19,130	*	6,370	102,220	68,540	20	10	40	27,340	*	6,270	20~30	70	540	650
	夏12時	75,250	52,220	30	40	230	14,190	*	8,540	95,630	66,530	20	100	210	20,300	*	8,470	20~30	70	540	650
	夏18時	62,190	41,490	30	280	1,900	12,120	*	6,370	79,970	54,000	20	620	1,720	17,340	*	6,270	140~270	220	1,600	1,930
	冬5時	81,970	56,400	30	*	50	19,120	*	6,370	102,190	68,510	20	10	40	27,340	*	6,270	20~30	80	560	680
	冬12時	73,010	52,160	30	40	230	14,180	*	6,370	93,330	66,450	20	100	210	20,280	*	6,270	20~40	80	620	740
	冬18時	61,210	40,690	30	280	1,900	11,940	*	6,370	78,700	52,980	20	620	1,720	17,090	*	6,270	430~790	380	2,760	3,320

※ *は1以上10未満を示す。

※ 津波については、「夏12時」以外は、深夜0時で被害数を算出。

表 1.7 主な想定結果 (4/5)

地震	季節 時間帯	最大 避難者数 (単位:人)	帰宅困難者数 (直後) (単位:人)	自力脱出 困難者数 (単位:人)	災害関連 死者数 (単位:人)	ライフライン被害						
						断水人口 (直後) (単位:人)	下水道機能 支障人口 (直後) (単位:人)	都市ガス 供給停止数 (単位:件)	LPガス 供給支障数 (単位:件)	最大 停電軒数 (単位:軒)	不通回線数 (単位:回線)	
都心南部 直下地震	夏5時	1,104,520	1,060,310	7,280	4,260	2,634,710	527,620	267,450	10,500	254,890	298,450	
	夏12時	1,079,860		5,090								
	夏18時	1,063,180		4,270								
	冬5時	1,104,470		7,280								
	冬12時	1,080,160		5,090								
	冬18時	1,064,620		4,260								
三浦半島 断層群の 地震	夏5時	410,740	917,300	2,340	1,590	968,020	257,890	27,690	3,000	124,870	137,250	
	夏12時	409,100		1,810								
	夏18時	398,010		1,510								
	冬5時	410,750		2,340								
	冬12時	409,210		1,810								
	冬18時	398,710		1,510								
神奈川県 西部地震	夏5時	44,590	432,190	370	170	78,180	33,870	13,480	920	71,370	51,280	
	夏12時	48,450		330								
	夏18時	43,180		250								
	冬5時	44,590		370								
	冬12時	48,600		330								
	冬18時	43,180		250								
東海地震	夏5時	61,860	1,060,310	*	220	17,180	87,360	0	40	203,580	163,810	
	夏12時	72,020		*								
	夏18時	55,760		*								
	冬5時	61,860		*								
	冬12時	72,030		*								
	冬18時	55,890		*								
南海 トラフ 巨大地震	夏5時	95,230	1,060,310	*	340	29,870	96,600	0	160	225,060	183,490	
	夏12時	109,630		*								
	夏18時	85,460		*								
	冬5時	95,230		*								
	冬12時	109,640		*								
	冬18時	85,580		*								
大正型 関東地震	夏5時	2,526,210	1,060,310	90,270	9,460	5,183,690	1,077,640	1,916,940	15,890	1,952,210	1,725,400	
	夏12時	2,432,900		69,930								
	夏18時	2,348,290		57,010								
	冬5時	2,526,490		90,260								
	冬12時	2,433,900		69,880								
	冬18時	2,365,850		56,180								
(参考)	関東 地震 元 禄 型	夏5時	2,673,230	89,450	9,930	5,183,690	1,077,710	1,916,940	15,880	2,057,590	1,767,510	
		夏12時	2,624,940	69,270								
		夏18時	2,466,350	56,490								
		冬5時	2,673,500	89,440								
		冬12時	2,625,870	69,230								
		冬18時	2,482,730	55,660								
	ク ラ ス の 地 震 (西 側 モ デル)	夏5時	3,313,650	1,060,310	147,210	12,270	6,285,400	1,346,980	2,336,270	18,810	3,199,510	2,585,860
		夏12時	3,224,940		114,140							
		夏18時	3,043,330		92,240							
		冬5時	3,314,430		147,150							
		冬12時	3,226,720		113,970							
		冬18時	3,066,920		90,110							

※ *は1以上10未満を示す。

※ 帰宅困難者数は、「通勤・通学者」と「観光客」の合計を示している。

表 1.7 主な想定結果 (5/5)

地震	交通被害			エレベーター閉じ込め者数 (単位:人)	災害廃棄物量 (単位:万トン)	津波堆積物量 (単位:万トン)	直接経済被害額 (単位:億円)	
	道路橋梁被害箇所数 (単位:箇所)	鉄道不通区間数 (単位:箇所)	港湾被害箇所数 (単位:箇所)					
都心南部直下地震	2,417	110	24	1,470	1,130	*	71,240	
三浦半島断層群の地震	1,875	37	19	1,450	380	*	28,150	
神奈川県西部地震	1,680	6	0	590	80	20	6,080	
東海地震	2,359	0	1	1,080	70	60~80	6,340	
南海トラフ巨大地震	2,417	0	1	1,300	120	70~90	8,940	
大正型関東地震	2,417	321	27	7,490	5,410	80~110	259,280	
(参考)	関東元禄型地震	2,417	321	27	7,640	5,690	350~460	276,030
	相模トラフ沿いの最大モデル地震(西側)	2,417	368	27	12,470	7,960	390~520	385,370

※ *は1以上10未満を示す。